

(連載「ワイワイガヤガヤ経営品質」)

三重県経営品質協議会運営委員長 長友 隆司 (Kairos 社長)

「変えるもの」と「変えないもの」

「三重」という地名の語源は、古事記の中にヤマトタケルの命がこの地に来られた時、「足が三重にも曲がるほど疲れた」とおっしゃったところからだとも、そもそもは水(み)の辺(へ)という場所を表しているとも言われているのだそうですが、明治以降は最初に県庁が置かれたのが三重郡だったというところから来ているというのがとりあえずの定説のように感じているそうです。とは言え、三重とはよく言ったもので、「伊勢」と「東紀州」、それに「伊賀」の三つの国からなっているとも取れる所がおもしろいところです。

「伊賀」というのは忍者の里として知られる奈良と伊勢平野の間にある盆地でできた地域を言いますが、古くは松尾芭蕉、観阿弥・世阿弥親子の出身地としても知られる所。最近では平井賢なんて歌手もそうか…。意外と芸ごとに秀でている地域かもしれません。

さて、伊賀にも経営品質に真剣に取り組んでいる企業があります。小川モーターズという自動車整備や自動車販売を生業としている会社です。もちろん社長さんは小川さんと言います。小川モーターズが経営品質に取り組み始めたのは、それほど古いことではありません。会社自体は戦後すぐの創業ですから社歴自体は60年余り、地域の中核企業の一つです。社歴の古さにおごらないところがこの会社の魅力の一つ。社長の小川さんも地域の名士として知られる人ですが、飾らない人柄や洒脱な語り口が魅力の人格者です。

自動車整備の業界はご他聞にもれずやはり厳しい状況が続いていると小川社長にうかがったことがあります。しかし業績は世の常、そういうことに流されるのではなく理想とする経営を目指したいと社長はおっしゃいます。地域に信頼され、お客様の安全と安心をどこまでも守り、社員の喜びを実現し、と社長の話はどんどん続きます。

田舎では、現在でも地縁、血縁、人の縁が大きな影響力を持っていたりすることがあります。小川モーターズでも創業以来のお客様、親子2代、3代に亘るおつきあいもめずらしくないのだとか。

経営革新ということは、「変える」ということだと短絡的に考える節がありますが、小川モーターズという会社を見ていると、案外そうではないのだということに気がつきます。自社の中にある根源的なものについての頑固さは徹底しています。「地域からの信頼が大事であるということは不変だ」と小川さんは言い切ります。また社員こそが「会社の財だ」ともおっしゃいます。

昔、商売の秘訣として「蔵の財より身の財也、身の財よりは心の財」ということを教えていただいたことがあります。経営品質に取り組んでいる企業を見ていると、経営革新というのは「変えない」という行為の中にあるのではないかと感じることがあります。

精神論的で恐縮ですが、地域の中で商いをやっていくということは、日々新たにしなければならないはずで、それは「変えるもの」と「変えないもの」を毎日見極め、継続してやり続けるということでもあるように思います。この「見極める」という行為がなかなか難しく、経営品質がいう価値前提に通ずるところがあるようにも感じています。

伊賀は牛肉の名産地でもあります。これだけ書けば、きっと…。